



第69号

〒441-3421 愛知県田原市田原町汐見5 田原文化会館内
TEL.<0531>22-2622

第18回市民海外派遣

ラオスとタイ・ベトナムの旅

＝愛知万博フレンドシップ国 ラオスのサイタニー郡を訪ねて＝



今回、23名の代表として参加させていただきました。私の大きな職務のひとつ、サイタニー郡への表敬訪問で田原市長からのメッセージを読み上げることがあり大変緊張をしましたが、何とかクリアしてからは郡長や職員の方々と「ラオラオ(大変強いお酒)」でしっかり懇親を深めることができました。また、JICAラオス事務所、田原市が協力してできた「バラ農園」や教育事務所の視察も順調に進みました。バラの栽培はまだこれからという感じで、JICAではラオスの農業事情や農業支援などのお話を伺いました。

ハノイに入って通訳のロン君がバスの中で、観光で来る各国の人々の特徴を捉えて、まるで「吉本新喜劇」のごとく面白おかしくしゃべってくれました。我々も日本人の代表です。我々が、彼の目にどのように写ったか、一度聞いてみたいと思いました。

皆さんの協力で事故も無く、本当に楽しい視察ができました。

【TIA・山下政良】

市民海外派遣事業報告

自分は、11月20日の視察行程の感想を書くことになりました。宿泊ホテルの名前は、ドンチャンパレスでした。朝の食事は、バイキング方式でしたのでラオス料理の他、色々楽しむ事ができました。

さて行程ですが、午前9時に専用車にてサイタニー郡へ行き、郡長を表敬訪問をし、一緒に昼食をとりました。郡長の年齢が54才と私と同じでビックリ！！？又、ラオラオ酒にもビックリでした。楽しい昼食を済ませて、次に向かったのがバラ園でした。バラ園はすごく手入れされており、今後の期待が大きいと思います。6日間お世話になり、アリガトウ。

【伊藤 一実】

以前、タイやベトナムを訪ねたことはあるけれど「ラオスってどんな国だろう」との思いで今回の旅に参加しました。ハノイで乗り継ぎ、ラオス航空のプロペラ機でビエンチャンの空港に着いたのは田原を出発してから約13時間後でした。過去に戦乱に巻き込まれ、一時はタイの一部、フランスの統治、日本の侵略、ベトナム戦争等を経て1975年社会主義国家として独立したラオスだそうです。空港前の景色や宿泊したホテルの11階から見た夜景、翌日訪ねたサイタニー郡庁舎やバラ園、教育事務所などを見るにつけ、この国はまさに発展途上中の国なのだと、現地に立ち身をもって感じました。



【縦山 紳賢】



農業視察の旅で私に何が分かるか不安でしたが、そこは専門の方々がみえて頼もしかったです。私でも厳しい環境の中で努力されているのが良く分かりました。昼食会では郡長のブントン・ポマーチャニー氏も出席され、地ビールや地酒でみんな、大いに盛り上がりました。地酒を少しずつ一気飲みし順番に廻すのですが、これが大受けて楽しいうちに打ち解けたように思います。その後ガイドのトクさんも学んだラオス国立大学内にあるジャイカの施設、日本人材開発センターへ行き日本も頑張っているなあとうれしく思いました。団長の山下さんお疲れさまでした。一緒に皆さんありがとうございました。

【川崎 時子】

私が5年前に行った時と今とでは、ラオスは大きく変わっていました。

以前にはあまり見かけなかった大型バスやダンプカー、そして後輪3軸のトレーラーが走り、大きなタンクローリー車が大通りを数台続いて走行していました。また、私達を乗せた大型バスは韓国製で、板バネの近代的なバスでした。

タートルアンの広場がアスファルト舗装され、凱旋門の周囲は庶民の憩いの場所としての公園となっていました。タクシーは6人くらい乗ることのできる三輪車で、市民の足は150cc以下のスクーター。幹線道路は、片側3車線でしたが郊外は2車線から1車線となっていて、新しいショッピングセンターもでき、その横で増設工事も行われていました。



メコン川の流れは時速6km程で、ブッタパークの前の中洲では大型の機械とダンプカーが入り川砂を取っていました。残念なことに川には舟は見当たらず、水は茶色に汚れていました。

【太田 武平二】

以前からラオス、ベトナムは一度行ってみたい所でしたので、市の国際交流協会の視察事業に参加させて頂きました。ラオスの郡長訪問での意見交換や農業施設（バラ園）を見学した時に感じました事は、当国には主な産業が農業中心的な役割を担っている感じで、その事はかなりの歴史もあるんだなと思いました。田園地帯を走行中車窓から見る稲の刈取後の風景は褐毛牛が藁をゆっくり食べていて、のどかで微笑ましく思いました。ベトナムに入国し工業団地の多さにベトナムの成長が著しく感じられました。ラオスも隣国のように成長し、日々の生活向上を願いながらタイの友好橋へとバスは移動。心地良い風を受けながら旅が出来ました。

【鈴木 貞敏】

今回、ラオスの JICA 事務所を訪問し、所長さんたちが外国で日本文化や科学技術などを教えておられる話を聞き、大切な仕事をされていると思いました。

サイタニー郡長を表敬訪問して、昼食は郡長主催で水上レストランにてラオス料理と地酒で乾杯しました。続いて田原市の援助によるバラ園を見学しました。そこは六人で管理しているということでしたが、手入れの仕方等に物足りない様子を感じ、まだまだ援助の方法に課題が残ると感じました。次に、田原市の援助により設置された教育事務所を訪れました。そこで出会った青年の意欲に満ちた澄んだ瞳が印象的でした。

【田中 廣治】

びっくり!! 寒い!! 暑い国に来たと思ったのに…タイでの思い出はインドチャイナ市場での事。梅田川の二倍ほどの川沿いにある市場はとても賑わっていて活気がありました。一番驚いた事は、話には聞いていたトイレです。浴室くらい大きい部屋に溝があって、その両わきに足を乗せて用を足すのですが、手桶で水を汲んで流すのです。生まれて初めての体験でした。日本のトイレのすばらしさを改めて実感しました。市場は女の私にとって興味をそそられる物ばかりなので迷ったのですが、持ち手がバンブーのバッグに決めました。海外派遣の旅のよい記念になりました。ありがとうございました。

【加藤 美枝子】



3 日目にタイ、ラオスの国境を結ぶ友好橋へ行きました。友好橋は橋の中央にレールが走っていて、その両側が車道になっています。電車が通る時には車を通行止めになっているそうです。たった 10 分位の電車の旅でしたが楽しかったです。昼食はメコン川を眺めながらのタイ料理をいただきました。どうだみ、パクチーが入ってなかったので美味しく食べることができました。普段ふつうに食べれる日本食のありがたさを知り、個人では出来ない体験をした旅でした。またタイ、ラオス、ベトナムに行きたいと思います。本当にありがとうございました。

【鈴木 幸子】

サバイディ。ラオス語で“こんにちは”、という意味です。行く先々で使いたかったけど、最初は中々言えなかった。タイに入って最初に行った所がワット・ポーチャイ寺院だ。色彩豊かな煌びやかなお寺だった。そこで、ネックレスを買っている人もいた。ネックレスには、いわれがあって、現地のガイドによると飛行機が落ちた時にルアン・ババサイと言う僧侶が仏様付きのネックレスをかけて一心に祈ったところ、僧侶 25 人全員が助かったそうだ。私達が無事帰って来れたのも、ネックレスのおかげと感謝しています。ガイドのトムさんは、日本語が全然話せなかった。でも、ジョークはとても上手だった。改めて語学は大切だと思いました。

【太田 和子】

寒い日本から暑い国へと行って着いてみたらとても過ごしやすくおどろきました。今回の研修旅行で、ラオス、ベトナム、タイに行かせてもらい、初めての国ばかりなので楽しみにしていました。3 日目のワットケーク視察で仏陀パークへ行きました。中に入るとちょっと変わった大小様々な顔の仏像があり、これらは人々の寄付によって作られたと聞き信仰心の深さに感心しました。ラオスのはのんびりして過ごし易く、皆たくましく生きていましたが人々の生活がもう少し向上し、自由な発言、報道が出来る様な国になってほしいと思います。日本のありがたさがわかる旅でした。今回の旅に感謝致します。

【齊竹 峰子】



ISHIGURO
Agri-Innovation

イシグロ農材株式会社



田原証券株式会社

田原町本町41

TEL 0531-22-1256 (代表)



農業関連商品全般の店

丸源株式会社

LIFE-UP

Hallo

Reform&Culture

株式会社 ハロー

田原市田原町汐見34 TEL (0531) 23-3100(代)

カイソーン博物館を視察して初めて知った事は、ベトナム戦争がラオスの独立運動の内戦から広がり、ベトナムに飛び火をして、南北ベトナムの統一運動になっていった事実です。確かに私の若い頃新聞紙上で、ホーチミンルートと活字がありました。その道がベトナムにあったのではなく、ラオスにあったので、米軍の北爆により、多数の爆弾、地雷を落とされて、今現在も子供達が地雷の犠牲になっている事実を、平和な日本より来た私達は、戦争の後遺症に苦しむラオスにやはり援助が必要だと思いました。ブッダパーク視察では、やはり仏教国なので、色々な仏像等が公園内に配置されており、国の管理が行き届いていると思いました。

【彦坂 育甫】

現地 JICA 事務所の先生のお話でラオスの国土は日本の本州位、人口 600 万人で 80% が農民と聞きました。首都ビエンチャン郊外では大きな木は無く雑木林の原野が多く、その空間での稲作で今は収穫が終わっていましたが一ヶ所 15 人位横一列で稲穂の刈取作業を車窓より見る事が出来ました。

ラオスの人達は地産地消で所々に青空市場があり、生活に利用されていると感じました。地方道路はやがてやって来る機械化の時代に備え、主たる幹線道は片側 2 又は 3 車線と立派に出来ていました。

遺跡や博物館の広い駐車場には数少ない車の中、韓国大手自動車の車ばかりで少し淋しい気がしました。独立を勝ちえた若い国ラオスと交流を深め両国の発展に努めなければと感じました。

【森下 克義】



🌀 タンの椅子に楽楽と座りラジオを聞いていると、乱戦に落選した楽天家の友人が来訪した。爛漫としたラオスを礼賛し来世はそこに住みたいと云う。来来

🌀 前さんに解るのかい？オットット（オドオドオロオロ）老いておぼつかないおごりに満ちた翁。お腹が張りおこりっぽい恐れを知らぬ鬼達お化達大いなる魂。重い掟。厳かなおだやかな音。男心女心。すねてないで素直に云いなさい!!

🌀 がおが素敵よ崇高なスマイル好よ、スバラシー涼しい砂浜鈴の音、子ども達は巣立って行く。全ては水平線の彼方に吸い込まれたラオス!! RK

【木村 良治】

60 年代～ 70 年代、インドシナ諸国でアメリカからの解放闘争が行われ、パテトラオ、ホーチミンルート、ジャール平原、ラオス愛国戦線といった単語が新聞紙上にあふれ、当然の如くそれらに関心をもたざるをえなくなった。ところがベトナムの統一、ラオスの独立等で政情が安定し、遠い出来事になっていった。



そのような時、今度のラオス訪問で、独立を喜ぶ市民軍人達がランサーン通りを、パトウサイ（凱旋門）をくぐって人民広場まで行進していったという話を聞き、また国立博物館で解放闘争時の武器、写真パネル等を目のあたりにして、40 年程前の新聞紙上の単語の記憶がよみがえってきた。これらのことを説明し、ラオスの現状、将来について語ってくれた若いガイドのトク君の目には

輝きと自信にあふれていた。これを機にもう一度インドシナの歴史を見てみようと思う。

【鈴木 弘】

ラオスは、四方陸に囲まれ、これと言った観光資源もなく、大変遅れてる国だとまず思いました。観光地の一つ、ワットシェンクワンを訪れました。多くの巨大仏像が無造作に置かれているところからブッダパークと呼ばれ、入場すると、まず雑魚寝をした仏像が出迎えてくれました。仏教の像だけではなくヒンズー教の神々も祀られ、戦争で亡くなった人を供養する為に建立されたと聞きました。ラオスを訪問して特に遅れてるなあと思ったのが、電気水道設備でした。日本が今後援助の手を差しのべるとしたら、こちらの方面かなと思いました。にぎやかでとても楽しい旅でした。

【大久保 教夫】

ラオスビエンチャンに到着して翌日サイタニー郡庁、教育事務所、田原市技術指導のバラ栽培農業施設などの表敬訪問も無事終了。21 日はメコン川を国境とした隣国タイへの視察。ラオス、タイとの出入国の繰返しという大変忙しい 1 日でした。ラオスに戻りビエンチャン市内視察、メコン川沿いのブッタパーク、セメント作りのすばらしい仏像を見学し次はカイソーン博物館、きらびやかに輝くタートルアンでは鳥カゴに入れた雀を放しその場で又弱った雀を又捕まえる小鳥売りの子供達が多く見られました。パトウサイ（凱旋門）の上から 360 度に広がるビエンチャン市内の展望は最高の眺めを楽しむことが出来ました。

【眞木 良典】

私は、2年前に中国昆山市との国際交流の旅に初めて参加し今回は2度目になります。観光文化については、皆さんにお任せして、農業人として、感じたまま書いてみます。第1に気づいた点は、赤土で強酸性の土壌である。(土壌改良)が必要である。田畑にしても、個々の面積が小さいので(構造改善)が必要である。20年～30年前の日本を思い出す。JICAの指導が入っている所は、ちゃんと刈込み手入れされている。しかし街並み並木は放任仕立てで景観を損ねているのが残念である。何年か後に再度訪問した時は必ずや街並の樹木も立派に整備されている事を祈る。

【中神 重彦】



ビエンチャンから夜のハノイへ。空港から出ると、高速道路工事の大渋滞。市内で夕食後ホテルに着くと10時過ぎ。疲れてバタンキュー。翌朝騒々しい音で目を覚ますと、バイクの洪水。ハノイのバイクの多さにはビックリ。若者の多さにも、東南アジア特有の躍動を感じました。そして市内見学では、ホーチミン廟、世界唯一の、一柱寺、亀伝説のホエンキアム湖、水上人形劇、旧市街の散策等、楽しくも、忙しいハノイの一日でした。帰りの機中、目を閉じると、ラオスのパラ園、メコン川の雄大でゆったりとした流れ、列車で渡った、タイとラオスに架る友好橋等が巡り、あっという間の6日間でした。

【中神 安信】

ラオスからの農業研修生をお世話した縁で、愉快的仲間達とラオス、タイ、ベトナムを訪れる機会を得ました。ベトナムで一番思い出に残っているのは、以前我家にホームステイしていた豊橋技術科学大学の留学生のベトさんの御家族と再会できたことです。彼は現在、ハノイ産業大学の教授をされているそうです。

6日間という短い研修期間でしたがメコンの水で心の洗濯をすることができました。最後になりますが、色々困難な中、私達「草の根大使」を気持ちよく送りだして下さった方々に感謝してペンをおきます。

【桑名 重夫】



ベトナムで一番興味を持ったのは交通システムで、移動用バスの前列に座り、道路を行きかう乗り物の動きを観察した。道は広く右側通行で、市街地の交通の流れは30km/h位。市街地でも信号は少なく、交差点での優先意識や一旦停止のきまりも無いように思われた。赤信号で止まると、バスの前には2～30台の小型バイクが停止する。合流では大きなバスといえど止まらず、左右を見ながら進む。交差するバイクも避けて進む。日本なら事故や喧嘩になるところだ。道路のつくりや交通規制は生活にあったもので、折り合いをつけながら道路を利用する人々の知恵が感じられた。

【鈴木 一敏】

ベトナムはハノイ市内を視察しました。ベトナムは古くは中国、中世ではスペイン、19世紀にはフランスに統治されていたそうです。そして30年前のベトナム戦争ではアメリカを追い出して祖国の独立を勝ち取りました。その責任者がホーチミンさんなのだそうです。一生質素な生活をしてそして独身を通したそうです。だから今ではホーチミンさんは国の恩人または神様のように慕われているのだそうです。だから廟を作って祀っているのだそうです。市内はバイクがとっても活気のある国に見えました。戦争からの復帰を国民が願って活動していて日本の戦後の活気を思いました。

【山本 喜八朗】

今回のベトナム訪問はハノイ市のみの滞在であり、短い時間ではあるが私にとって二度目のベトナム訪問となった。今回も我々一行を出迎えてくれたのは延々と続く車の渋滞であり、通勤通学のためと思われるバイクの洪水であった。

また市内での電柱への電話線等の異様な配線の多さ、また切れてぶらさがったままの電線も相変わらず所々に見受けられた。現在のベトナムの公用語はベトナム語であり、その表記はローマ字とのこと、旧市街を始め、文廟、一柱寺等歴史的建造物には漢字が表記してあるがすでに漢字が読めない世代が多く出現していると聞く。このように混沌としたハノイ市内ではあるが民俗のエネルギーが感じられたように思う。

【鈴木 義彦】



豊橋技科大 留学生との交流会

10月10日（土）、豊橋技科大で、学園祭が行われました。今年は学園祭におじゃまして留学生と交流を深めました。交流会に参加した留学生は全部で13名。インドネシアが多く、内モンゴル、バングラデシュ、マレーシア出身の方々でした。

午後1時くらいから、留学生が出す催し物を見学し、午後3時から、数時間、日本人と留学生の間で、「将来の夢」「文化の違い」「関心事」について意見交換をしました。

「夢」としましては、将来帰国して、大学の教授になって、今学んでいることを教えたい、自分の会社を持ちたい。といった意見が目立ちました。

「文化の違い」として、例えば インドネシアでは、一年中夏で雨季と乾季しかないため、冬に半袖で日本にきて、“びっくり”というハプニングもあったそうです。

「留学生の関心事」として、ホームステイをすることで、日本の生活を体験したいという声がとても多かったです。“留学生の受け入れに興味がありますよ！”というご家庭がございましたら、たはら国際交流協会（TIA）まで、ご連絡ください。



日中料理対決！？

10月18日（日）、外国人のための「にほんご教室」の参加者とその家族40人が集まって、料理教室を開きました。日本の料理は「巻き寿司とお稲荷さん」、中国の料理は日本ではあまり知られていない「羊肉のしゃぶしゃぶ」に決まりました。

まず、寿司飯を作ります。ご飯を炊く時の水の分量、合わせ酢の作り方、日本人スタッフが先生です。お稲荷さんは簡単にできましたが、巻き寿司はちょっとテクニックが必要だったかも？ ご飯や具の量により、太かったり細かったり…。



羊肉のしゃぶしゃぶは肉の他に、レタス、白菜、小松菜、きのこ、春雨etc.何でも入れて。日本の「水炊き」に似ています。簡単でとてもヘルシー、ポイントは「たれ」。手作りのものを数種類用意し、色々な味を楽しめました。

これからも、言葉と一緒にお互いの国のいろいろな事を学んでいけたらいいですね。次は是非あなたも参加してみてください。



田原市民まつり＆国際理解講座

去る10月25日（日）、田原市民まつりに参加し、午後からは文化会館101会議室において国際理解講座を開催しました。今年度は、協会事務局が文化会館1階に引越したため、事務局を使ってパネル展示やたはら国際交流協会に関連したクイズを実施しました。市民まつりのバザーでにぎやかな屋外とは対比的に、文化会館内はやや人出が少なめではありましたが、クイズには多くの方が挑戦してくれました。これを機に、当協会への理解を深めていただけたことと思います。

また、国際理解講座では『TIAの20年と子どもたちの未来のために』～異文化体験を語る～と題し、岩淵氏と斉藤氏による講演、元田原町ALTケリー氏のビデオ出演による講演を行いました。会員を中心に、40名ほどの参加がありました。

感謝祭を祝おう！

～料理を作って、感謝祭を体験しました～

11月8日（日）、田原福祉センターの栄養指導室において「感謝祭」の意味を学び、料理を作りました。

教えてくれたのは田原市ALTのジェニファー・ケネディさん。

「感謝祭」は、アメリカやカナダでは大切な人と過ごす、とてもポピュラーな行事なので、田原でも皆と一緒に祝いたいと、このイベントが実現しました。

最初に、「感謝祭」の様子を簡単に学び、Let's start cooking in English!



2時間後、感謝祭の伝統的な料理が出来上がりました。昨日から調理していたターキーもこんがり焼き上がり、切り分けます。

「ターキーを食べると眠くなるんだよ」などと、英語でおしゃべりしながら皆で料理をいただきました。どれもおいしく、おなか一杯で大満足の感謝祭でした。



T I A国際交流会クリスマスパーティ

今年も12月12日（土）に恒例のクリスマスパーティが市内在住の外国人や市民98人が参加して、田原中部市民館で開催されました。

今年のテーマは料理で、テーブルの上には、お国自慢の手料理が所狭しと並べられ、中国のワンタン、春巻、春雨サラダや、フィリピンのぶた肉、人参、パイナップルをトマトソースとバナナケチャップで煮たターアンテレーター、とり肉とジャガイモをパプリカとローリエで煮たアドボ等、日本では味わえない本場の家庭料理に話もはずみ、気になる言葉も日本語教室に参加されている方も多かったので、会場内はほとんど日本語で会話ができました。さらに、ヒップホップダンスグループのエネルギッシュなダンスで盛り上がり、歌、景品多数のビンゴゲームで子どもから大人まで楽しい時間を過ごしました。

今回のパーティは、皆さんに参加していただいたおかげで、大盛況に終了しました。

次は何のイベントで皆さんにお会いできるでしょうか？

また、楽しい時間を一緒に過ごしましょうね！



書き損じはがき回収キャンペーンにご協力ありがとうございました

「書き損じはがき」のポストを1年ぶりに開けて回収をしました。各所の収集枚数は右のとおりです。

ご協力いただきました皆さんありがとうございました。

今年も、名古屋国際センター世界寺子屋運動名古屋実行委員会へ送ります。

回収ポストは常時設置してありますので、引き続きご協力をおねがいします。

ショッピングパオ北側入口	325枚
田原市役所玄関	5枚
T I A事務局	325枚

ジョージタウンより



インフルエンザの脅威

世界中を騒がしているインフルエンザ、ジョージタウンの学校は8月に新学年が始まるやいなやインフルエンザで学校を休む子や先生が続出しました。ジョージタウンのあるスコット郡では学級閉鎖はなかったものの、ケンタッキー州において休校措置をとったところもありました。これは主にH1N1 (Swine flu) 豚インフルエンザを警戒したものです。12月3日現在で豚インフルエンザと確認されたのは州全体で1752件(スコット郡11)、死亡は36件(スコット郡1)が報告されています。ワクチンの配布も11月から始まりましたが病院を通じてでなく、州から各地方自治体に(ここではスコット郡保健所に)割り当てられ、誰に優先的に接種するかは自治体の判断に委ねられました。ここではまず多くの人に接する病院関係者と教師、妊婦、ハイリスクの病気を抱えている人、24歳までの子供と大人、6ヶ月以下の乳児と暮らしている人が最優先で接種の機会を与えられ、その後だんだん制限が取り払われ、ほぼ誰でも希望すれば接種できるようになったものの、ワクチンの供給量が限られていて指定された日と時間に行けなければ接種できません。保健所を通じれば無料で接種できます。私は仕事から幸運に教育委員会を通じてH1N1と季節のインフルエンザの予防接種をすることができ少し安心です。学校でも殺菌、手洗い、など子どもたちもずいぶん気をつけるようになりました。12月に入りH1N1は収まってきているとのことですが、これから季節のインフルエンザの時期です。田原にインフルエンザが蔓延しないことを祈っています!

クーパー・由紀

法人会員の皆様、一年間ご協力ありがとうございました。

愛知海運産業(株)	菊万	愛知みなみ農業協同組合	(株)真木商店
(株)アスペンフードプランニング	フードセンター・コウベ	トヨタ自動車(株)	丸源(株)
渥美交通(株)	(株)三愛	(株)富田組	(株)八木工務店
(株)渥美モータース	(株)田原シティホテル	(有)夏目畜産	(株)南鐵建
(株)石黒製菓所	(有)大陽社印刷所	(株)ハロー	ヤマキ牧場
イシグロ農材(株)	田原金融協会	(株)久田運輸	(株)パイオコア
イトウ通信サービス(株)	田原証券(株)	広中製菓(株)	(株)パイオニア・グリーン
オケマツ水工(株)	(医)富永医院	(株)藤城運輸	協同組合J&J田原

(五十音順)

＝編集後記＝

日本の国民的行事、大晦日の第60回紅白歌合戦は白組の勝利に終わりました。昔からこの紅白歌合戦はブラジルなどでも放送されていたようですし、現在では、インターネットも普及し、更に多くの国々に放送されていると思います。

今年は、TIA創立20周年で、田原・ジョージタウン姉妹都市提携20周年でもあり、いろいろな交流事業や記念事業などがあります。より多くの会員の方や市民の皆さんが参加していただけたら良いと思います。

また、「ブリッジ」も行事のお知らせや活動報告など様々な情報を皆さんに伝えていきたいと思います。(K・F)

＊＊ 外国人登録者数1253名(12月31日現在) ＊＊

発行・編集



たはら国際交流協会

〒441-3421

愛知県田原市田原町汐見5番地

TEL 0531(22)2622(田原文化会館内)

発行 2010年2月1日

本誌は再生紙を使用しています。